会　議　録

名称	平成 27 年度　第 3 回　市川市総合計画審議会
議題	第 1 号　市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について
開催日時・場所	平成 27 年 10 月 26 日（月）　10 時 00 分～12 時 00 分 市川市役所本庁舎 3 階　第 5 委員会室
出　席　委　員	秋本 のり子委員、石原 みさ子委員、内山 久雄委員、金子 貞作委員、川口 学委員、久保田 優委員、佐久間 文明委員、佐藤 ゆきのり委員、瀧上 信光委員、田中 貴幸委員、富田 勇人委員、冨田 嘉敬委員、中島 明子委員、西牟田 勲委員、松永 鉄兵委員、松永 哲也委員、 計１６名（欠席６名）
配　布　資　料	・資料１　市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）（概要） ・資料２　市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）≪総合戦略編（骨子案）≫
特　記　事　項	

（10 時 00 分開会）

■開会

○瀧上会長　それでは、ただいまより「第３回市川市総合計画審議会」を開催いたします。本日は、６人が欠席とのことですが、現在半数以上の委員が出席しておりますので、条例第６条第２項の規定によりまして、本会は成立いたします。

なお、会議につきましては、「市川市における審議会等の会議の公開に関する指針」により、審議会等の会議は、公開を原則とする旨定められておりますことから、会議は公開といたします。ご異議はございませんでしょうか。それでは、傍聴を希望する方がいらっしゃったら入室していただくようお願いいたします。

（異議なし）（傍聴人０名）

なお、会議録についてですが、事務局が作成し、出席委員に内容を確認していただきます。その後、あらかじめ指名した署名人に署名していただいております。今回は、金子委員と久保田委員に署名人をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは次第に従いまして、議題第１「市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について」事務局からご説明をお願いいたしますが、前回の審議会におきましては、市川市の将来人口推計と市川市の将来人口に関する市民のアンケート調査等について審議をいたしましたけれど、本日はそれに対応した総合戦略についての審議を行うということでありまして、事務局の方からは総合戦略の骨子案につきまして説明をお願いいたします。

■議題第１号　市川市まち・ひとしごと創生総合戦略骨子案について

○事務局　資料は、はじめに、A3 サイズの『資料１　市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案概要』、次に、A4 サイズ『参考資料　総合戦略事業選定の考え方について』をお願いします。それでは、資料１をお願いします。

資料の左半分については、人口ビジョンの骨子案ということで、第 1 回で説明いたしました『人口の現状分析』、第２回で説明いたしました『将来推計』をまとめたものであります。この中で、市川市の人口動態上の強みや特徴、また課題を整理したものであります。

まず、人口の現状分析から、自然動態と出生の状況を見ますと出生率は１．３２と低く、30 代後半の出産が増加するなど、少子化・晩産化が進んでいることが分かりました。また、社会動態の状況について、アンケートの結果などを踏まえますと、結婚や就職などを機に、20 代を中心とする多くの若者が、地方から市川へ流入している状況がありました。

一方で、30 代、40 代前半の子育て世帯を中心に、住宅環境を改善させるために、近隣市や都内へ引っ越していくという状況がありました。

また、出生率や定住の希望を踏まえながら、将来人口推計についても行いました。この結果、年少人口については、持続可能な社会としていくため、子どもの数を確保するには、出生率の向上が必要となっています。また、生産年齢人口については、出生率の回復や定住希望を叶えていくことで、年齢階層ごとの人口にバラつきのない、ピラミッドが維持できるものとなりました。また、老年人口については、現在、団塊ジュニアを中心とする生産年齢人口が多くを占める本市のような都市部では、今から２０年後には、高齢者が必然的に急増していきます。出産や定住の希望が叶っても、高齢化率が３０％を超えていくという結果になりました。

このような、現状分析や将来推計を踏まえまして、総合戦略の構成ですが、まず、本市については、住宅都市としての機能が最大の強みであると考えています。特に、結婚・就職をきっかけに、新たな生活を行う場所として、地方出身の多くの若者から、市川市が選ばれている状況があります。これを踏まえ、総合戦略を考える出発点として、本市を、『都心に対する地理的優位性や、発達した公共交通機関などの魅力を活かし、入学・就職・結婚を機に、新生活をスタートするまち』と定義しました。

そこから、多くの若者が、やがて家族をもって、子育てをはじめる、そのための支援をするということで、基本目標の１番を、『家族をはじめるまち・いちかわ』としました。このなかで、結婚、妊娠、出産、子育て、さらに教育を支援し、出生率の向上や子育て世代の転出超過に対応するものです。

そして、家族となった若者、あるいは市川に住んでいる多くの世代に対して、住み続けていただくための、まちの魅力を高める取り組みをまとめ、基本目標の２番を『住み続けたい魅力あるまち・いちかわ』としました。このなかで、景観、安全、文化、産業、観光に取り組み、定住の促進、生産年齢の確保、人口ピラミッドの適正化に対応するものです。

最後に、その後は、多くの市民が高齢者となっていきますので、基本目標の３番を『みんなで支えるまち・いちかわ』としました。このなかで介護、医療、地域福祉を支援し、超高齢社会の到来に備えていくものです。

このように、ライフステージにそった総合戦略の構成を提案したいと思います。

また、各基本目標には、具体的な取り組みの方針として、施策の方向を 9 つ位置付けています。

施策の方向１では、『いちかわで結婚をはじめる』と題し、市川で新生活をはじめる若者を起点に、まずは、出会い場を提供する『婚活支援事業』、さらに、『若者の就労支援

事業』によって、生活基盤の安定を支えることで、希望する結婚をかなえるための取り組みを進めてまいります。

次に、施策の方向２では『いちかわで子育てをはじめる』と題し、結婚後に訪れる、妊娠・出産から子育てまでを、切れ目なく支援していきます。子育て支援については、『子どもの医療費助成』『保育所整備』『新生児のいるすべての家庭へ訪問する全戸訪問事業』など、支援に取り組んできました。総合戦略では、現在の課題に対し、特色ある取り組みが求められています。今回は、保育士ニーズへの対応として『保育士確保対策事業』や母子手帳をもらう時から切れ目ない支援体制を整備する『子育て世代包括支援事業』などに着手し、誰もが安心して妊娠・出産を迎えられる環境づくりや、喜びを持って子育てを行えるための支援に取り組んで行きます。

次に、施策の方向３では『いちかわで学びをはじめる』と題し、出産、子育てに続く、子どもの就学シーンに対しても支援していきます。市内には、4つの大学、私立学校も多く、文教都市としての顔を持ちますので、そのイメージを活かしながら、トップアスリートによる『夢の教室』や、地域の人材を活用した自学自習の機会を提供する『まなびくらぶ』など、魅力的な学校教育に取り組んで行きます。

次に、施策の方向４では、『心地よい景色のあるまち』と題し、『ガーデニングシティいちかわ事業』や『まち並み景観整備事業』などにより、住んでいて良かった、住み続けたい、住んでみたいと思える、美しいまち並みに取り組んで行きます。

次に、施策の方向５では、『安全なくらしのあるまち』と題し、住み慣れた地域で安心してくらせるための、『防犯対策事業』に取り組んで行きます。

次に、施策の方向６では、『誇れる文化のあるまち』と題し、歴史的文化資産や、文化人ゆかりの地が多くあるという本市の強みを活かしていきます。特に、まちなかにある文化施設をめぐるために必要となる『文化施設案内サインの整備事業』や『街回遊展』などに取り組み、身近なまちの文化に市民が親しみ、まちへの誇りと愛着を育むための事業に取り組んで行きます。

次に、施策の方向７では、『賑わいのあるまち』と題し、市内中小企業の製品・技術を積極的にアピールし、連携や販路拡大を支援する『市内中小企業支援事業』、また、市民に対しても、地域の再発見となる観光スポットめぐりを行う『いちかわふらり途中下車事業』などにより産業、観光、地域の活動など、さまざまな分野で、新たな資源・人材の発掘や交流を活発にする事業に取り組んで行きます。

次に、施策の方向８では、『介護・医療を支える』と題し、将来、急増する高齢者によって、介護や医療の需要がひっぱくすることが予想され、これに向けた備えを進めていく必要があります。今回は、『介護職員初任者研修費用助成事業』により、人材の育成や

確保に努め、また、『介護予防・生活支援サービス事業』などを推進し、介護予防の充実や、医療と介護の連携強化に取り組んで行きます。

最後に、施策の方向９では、『地域で支えあう』と題し、超高齢社会に向けては、施策の方向８による公的サービスだけでなく、地域の支えあいが非常に重要となってくることから、介護施設の一部を地域に開放し、集いや地域活動の場とすることを支援する『介護施設における地域連携支援事業』や『地域ケアシステム推進事業』などにより、住民主体の活動を支援し、地域で積極的に支えあう環境づくりに取り組んで行きます。

以上９つの施策の方向により、総合戦略を推進していきたいと考えております。

なお、資料２については、骨子案として、施策の方向ごとの事業を掲載しております。

続きまして、参考資料をご覧ください。総合戦略骨子案には、現在、５４の事業を掲載していますが、その考え方について、説明いたします。総合戦略では、地方自治体が自主性を発揮し、地域性のある取り組みをすることとなっており、そのための財源として交付金等が期待されているものです。

そこで、事業の選定にあたっては、総合戦略の策定を機に、地方創生にかかる交付金などを活用した新たな取り組みとなる事業を『重点事業』としました。一方で、子育て支援や高齢化対策など、基本目標や施策の方向の主旨に合致する事業について、すでに、各部門別行政計画で推進されております。このような事業については、継続事業として、一部掲載しております

なお、地方創生の交付金ですが、総合戦略の策定に先立ち、地方創生を推進するため、すでに『先行交付金』として交付されています。この要件としては、『新規事業』『ソフト事業』『市の単独事業』ということがおおむねの要件になっております。今後の交付金の詳細について、いまだ国から提示はありませんが、少なくとも、このような条件を満たす必要はあると考えております。説明は以上です。

○瀧上会長　ただいまお聞きいただいたように、骨子案では市川市の特徴を、都心に近い住宅都市として捉えて、総合戦略を組み立てています。そして、その基本コンセプトとして「新生活をスタートするまち」ということで、その上で 3 つの基本目標を掲げています。これらについては、今まで 2 回この審議会でも議論をしてきました、市川市の人口の現状、将来推計、市民のニーズなどを踏まえて作成をされたものと理解しています。

そして、その議論の中では、1.32 という市川市の出生率をどのようにして回復していくか、市民意向調査では、市民の希望出生率は 1.78 となっていますが、それを 2030 年までに達成したいという考えもあり、出生率の回復をどのようにやっていくかということがあります。それから、子育て世帯を中心とする定住促進ということで、子育て世帯

が社会的な転出という大きな要素になっており、今後この地域が発展するために定住促進をいかに進めて行くかということがあります。そして、この超高齢化社会ということで、今市川市の高齢者人口の割合は現在 20%くらいですが、これが 32%を上回ることが予測されおり、こういった超高齢化社会をにらみ、今から何をやっていくべきかということがベースになっているかと思います。

そして、この基本目標に対して、9 つの施策の方向という説明がありましたが、方向や考え方について、今後、議論を審議会でやっていきたいと思います。

総合戦略については、地域の実情を踏まえて、これらの施策を一体的に推進するということが求められており、地域の特徴を生かした自主的自立的な政策を展開するということも事業として求められております。従いまして、審議会の議論の中では、市川市の特徴を踏まえた、市川市らしい総合戦略をどのように作っていくかといった議論をしていく必要があるかと思います。そうした際に、市川市の強みを、今後の総合戦略にどのように組み込んでいくかという視点からの議論も必要かと思います。

市川市の強みというのは、従来からこの審議会に議論があるように、住宅都市、公共交通機関の利便性、ショッピングの利便性などが挙げられる他に、芸術、文化、歴史の都市、江戸川など都市としてのバランス、アクティブシニアなど様々なご経歴を持った人材が非常に活発に地域の様々な活動をしていること、それから、ＩＴの先進都市ということで、従来から市川市は様々なＩＴを生かしたまちづくりが進められていること思います。そういった強みを、基本目標を達成するために、どのように市川市の特色を生かした、市川市らしい総合戦略を仕上げていくかといったことが、今後この審議会の中で求められていくと思います。

事務局のほうから説明がありました「まち・ひと・しごと総合戦略の骨子案」の考え方を基にして、議論を進めていきたいと思います。各基本目標毎に、それぞれの専門の分野の委員の先生にご発言をお願いしたいと思います。その前に、県内で様々な自治体の総合戦略の策定に携わっておられます、ちばぎん総合研究所の松永委員のほうから今の骨子案の説明について、どういったご意見をお持ちになったかについて、ご意見をお願いいたします。

○松永哲也委員　総合戦略の作り方には 2 つあり、1 つはそのまちの特徴を生かすといったことで、トップダウンで作るケース。もう 1 つは、今回のようにボトムアップで、庁内会議にかけていると思いますが、そういった作り方の 2 つがあります。出て来た結果としては、トップダウンの方はエッジのきいた特色のある総合戦略が出来てきており、ボトムアップのほうはどちらかというと、大変失礼ですが、総合計画の焼き直しのような

総花的に近いものが仕上がってくるケースが多い状況です。大きな都市は殆どボトムアップであり、トップダウンでやっているところは小さな市町でしかない状況です。

総花といっても色々なタイプがありますが、その中では、市川市は割と特色が出ているかと思います。今回のコンセプトが「新生活をスタートするまち」ということで、それに合わせて子育て支援、定住促進だとか高齢者対策とかをまとめたということかと思いますが、自治体によっては総合計画と同じように 100 も 150 も施策が出て来るところがあり、それに比べれば、コンセプトを作り、それに伴って進めていますので、そういった面ではよくまとまっているかと思います。

ただし、具体的な施策については、このあとどういう KPI が出るのかといったことがあり、それぞれご専門の先生に伺う必要はあるかと思いますが、私としては、先ほど会長がおっしゃったように、住みやすさや、交通の利便性といったことで若い人が入ってくる一方で、何かを転機に流失していくまちでもあるといった状況があり、その流出をいかに抑えるかが 1 つの目的であるかと思います。

例えば、資料 2 の施策を拝見すると、夢の教室運営、シェフ先生、コミュニティスクールなどが記載されていますが、こういうことは従来からされており、他も同じようなことをやっているかと思います。これで本当に市川愛が育つのか、もう少し特色のあることをやってみてはよいのではないかという気持ちもしています。例えば、館山は館山愛を育てるということで、館山の歴史と文化を教える専門の教材を作っています。また船橋市も、「ふなえもん」のキャラクターを教育のイベントなどにも使い、賑わいを高めようとしており、市川市でももう少し特徴のある強い事業があってもよいのかと思っています。

○瀧上会長　ただいまのお話にもありましたが、総合戦略の中では、評価の指標を作らなければならないということで、基本目標と施策単位に評価指標を作るということも要請されていますので、今後の議論の中で、どういった評価指標を設定するかといったことについても議論をしていきたいと思います。

それでは順次、基本目標の 1 から 3 について議論を進めていきたいと思います。

まず、基本目標 1 の「子育て支援」ということですが、特に、市川市の場合では 20 代を中心とした若者の流入が多いという特徴を出発点としていますが、出生率の向上につながるように、入口となる若者の結婚支援から始めることになっています。市民アンケートの中でも、結婚していない理由として、「機会が無い」ことや「雇用の不安定」などが結婚するための 1 つのネックになるといった意見も出ています。それから、安心して出産に臨めるよう、出産から子育てまで切れ目のない相談や支援をしていくということ

ですが、希望出生率が 1.78 であるのに対して実際は 1.32 と、市民の希望通りのお子さんの数にはなっていなおらず、その理由として一番大きいことは、子育てや教育にお金がかかりすぎる、保育所などの預け先が少なすぎるなどといった意見も出ています。さらに、学校教育の問題についてですが、特徴的なこととして、今後「教育が充実しているまち市川」ということを強みとしてやっていくといった内容となっています。

それではご意見を順次お伺いしたいと思います。最初に保健という事で佐久間委員にお聞きしたいと思います。佐久間委員においては人口の問題について、自治体間の競争とのことで、人口の減少を食い止めるためには、例えば、船橋に市川市から 700 人くらいが出て行くといった自治体間の競争で、他の自治体との比較といったことの重要性も前回ご指摘いただきましたかと思います。そういった面を含めてどういった取り組みをやっていったらよいかということで、ご意見いただければと思います。

○佐久間委員　先ほどの資料 1 の骨子案の説明をお聞きしていまして、1 回目の時に話をさせていただいたことと重複しますが、1 つ思ったことは、社会動態のところで、子育て世帯が近隣市や東京都内へ転出超過という記述がありますが、どうして転出していくのかといった理由の把握ということが、まず 1 つ大変重要かと思います。前回は私は欠席でしたので、そういったお話があったのかもしれませんが、どうして市川市から出ていってしまうのかという理由が何なのか、その理由がわかれば、そこの対策をとることによって引き続き市川市に住み続けて、そこで子育てを継続をしていかれるということが可能になってくるのではないかと思います。

そういったことからすると、今、基本コンセプト、基本目標という言葉として表しているが、「選ばれるまち市川」という視点でやっていく必要があるかと思っています。

特に保健ということではないですが、私達のセンターの都内に住んでいる職員で、育児休業を取っている職員がいるのですが、本人は早く職場復帰したいと言っており、ただ子供さんを預けるところがなくその結果待ちの状態で、保育園が決まれば復帰したいと言っている職員もいます。そういったことより、子どもを安心して預けられるところが市川市内に多くあれば、それだけ市川市内で、子育てを継続していただけるのではないかと思います。

保健ということであると、資料の中に予防接種関係の事業、乳幼児の健診の事業がありますが、こちらについては、どのような事業があって、どのようなサービスが受けられるのかといったことの情報発信が非常に大切かと思います。予防接種のモバイルサービス事業とも書いてありますが、積極的に色々な情報媒体を使って、このようなサービスが受けられるのだということを発信していただくと、市川市の魅力につながるのでは

ないかと思います。以上です。

○瀧上会長　ありがとうございます。先ほど、どういった事情で子育て世帯の転出が多いのかということについてですが、前回市民アンケートの結果の中で一番大きかったのが住宅事情です。なかなか難しい事ではありますが、子育て世帯への住宅関係の支援があればという意見もあり、住宅関係が大きく影響しているという結果が出ています。

それから、ＩＴの活用にもつながり、サービス全体の話にもなるかと思いますが、基本目標全体を通じて、市川市らしいものとして、「まち・ひと・しごと」においてＩＴをどのように活用するかといったことが、1 つ横断的な柱として考えられるかと思います。今お話のありました、どこでどのようなサービスが受けられるのかわからないということに関する情報提供の話に関係して思いました、ありがとうございました。

次に「子育て」という面で、市川子ども・子育て支援施設協会の川口委員からは、産み育てやすい市川であるというための環境整備が必要であるといったことを、一回目の時にお話しいただいたかと思いますが、骨子等の話を聞かれていかがでしょうか。

○川口委員　前回も申し上げましたが、市川子ども・子育て支援施設協会は 38 ヶ所の民間の保育園、こども園、公立指定管理運営の保育園、母子生活支援施設、児童家庭支援センターなどの子育て関係の施設を管理しております。

私達が出来ることとしては、保育園の質を少しでも上げていくこと、その中で待機児童を減らしていく働きに寄与できることかと思っています。定員を可能な限り増やし、そのような中で仕事をしたい、始めたい、継続したい方々が仕事を続けられるようにすることがとても大事だと考えています。

そのために何ができるかということですが、保育園の数が増えていく事ももちろん大事だと思いますが、今運営している施設、保育園などで受け皿をもっと増やしていく工夫が必要だと思います。1 つ 1 つの園でもう少し定員が増やせる可能性はあるものの、最大の課題となっているのが、住宅事情のこととも関係があるかもしれませんが、保育士さんの確保が非常に難しいことになるかと思っています。近隣の区や市などに行く場合や、他の条件のいい仕事を選ぶこともある中にあって、保育士が集まれば、定員がもっと増やすことができるかと思います。今の定員のなかで、もっと受けられる体制を形づくっていかなければならないかと思います。そのためには、学生の頃から、将来を見据えた何かの制度など、市川市で生活をしていただきながら志してもらえたらいいかと思っています。その具体的な事業が戦略の中で少しずつ表されてされていればよいかと思います、以上です。

○瀧上会長　ありがとうございました。総合戦略の中で何らかの柱、例えば、保育士の確保、保育園の充実などがありますが、市川の特徴を生かしての政策は何か考えられますか。

○川口委員　漠然とですが、市川市内の保育所で勤めると、このようなメリットがあるといったこと、安心して仕事をし続ける事が出来といったことなど、具体的に条件として、もっと整理されていき、他に負けないくらいのことがあるとよいかと思います。

○瀧上会長　ありがとうございました。次に９つの施策方向の中で、「教育支援」が出ていますが、これはＰＴＡ協議会の冨田委員のほうからお聞きしたいと思います。１つは地域の大学等と連携しながら教育の質の向上を図るということで、教育が充実しているまち市川とのことですが、具体的に総合戦略として、例えば大学等を活用した教育の質の向上など、このようなことをしたらどうかといったことを含めてご意見をお伺いできればと思います、よろしくお願いします。

○冨田勇人委員　今、地域の大学の方と小学生が交流をして、色々なことを一緒にやっており、昨日もさんしゃ祭において、大学生が来てロボットの操作などを小学生に教えるなどをしていましたが、そういったことから、きっかけをつくって始めて行くのが凄くいよいことかと思います。

　あとは、地域との連携かと思います。自治会や町会との連携をうまく取り、防犯などにも力を入れているところですが、周りから見て、市川市は教育などが進んでいる方かと思います。ＰＴＡでも色々な事業をやっており、その中でも放課後事業、校内クラブなども充実しているので、もっと前に出していけたらといいのではないかと思います。

　あとは、学校が終わってから、保護者が家にいないといったところで、学童保育などに行ける子はよいが、そうではない子は、例えば、児童館を活用し、そこで宿題を教えてあげるといったことを、大学生などと連携してやっていけたらもっとよいのではないかと思います。なかなか難しいとは思いますが。

○瀧上会長　最後の大学生が連携して小学校のサポートということですが、今、学校でビーイングといって、私どもの学生が放課後小学校に行って相手をすることや、これは少し違いますが、中国人の日本語が全然できないお子さんに対して、私どもの大学の留学生を派遣してサポートするなど、小学校との連携ということを、少しずつではあります

が進めているという状況であります。

　それから、定住促進にも関わってくる話ですが、前回の審議会で、郷土愛を教えるといったお話があり、船橋や浦安もそうだったかと思いますが、地元で郷土のことを小学校の頃から教えること、先ほども話がありましたように、館山などは副読本を作って小学生から郷土愛を持つというといったことがあるが、そういった観点ではいかかでしょうか。

○冨田勇人委員　やはり郷土愛や地元愛は小さい時から育んでいかなければいけないと思います。地域のお祭りやイベント、学校の運動会などはあるのですが、例えば、地域のお祭りとかは3年、4年に1回というところもありますが、そういったものをもっと大事にしていく事があるかと思います。大人になっても、今度はお神輿で参加するなど、続いているところもり、そういったことをもっと大事にしていけたらいいと思います。核家族になり、近所との付き合いなども少なくなってきているので、そういったイベント、例えば、大きいマンションであればマンションのイベントやお祭りなど、そういったところでもっと地元と仲良くなり、また、そういったことに参加すると興味もわいてきて、協力しようという気にもなって来るかと思いますし。子供達も、それらを見ながら成長していければもっと盛り上がっていくのではないかと思います。

○瀧上会長　そういったことを総合戦略の中で、地域全体の方針として、何か柱をたてるといった形で、地域全体で取り組むようになるとよいかと思います。先ほどもお話がありましたが、市内の学校全て郷土愛の教育を実施するといったことなど、色々とやっている他の自治体もありますし、それから、市川に対して思いを持っている人も多くおり、色々経験を持ったアクティブシニアもいるといった状況もあり、地域全体で子供を育てるといったことで戦略を考えられないでしょうか。

○冨田勇人委員　今でも色々とやっていただいているとは思います。例えば、博物館協議会などで、子供達、市川の歴史を学ぶということで、色々な展示、説明などを小学校などでやっています。例えば、市川の歴史とか著名人などをもっと知ってもらうような授業があるとよいかと思います。

○瀧上会長　前に学生と話をした時に、市川検定をやったらどうかといった話がありました。そうすれば、例えば、小学生の級が上がっていき、それに刺激されて市川の勉強をするといったことにつながるのではないかといった提案もありました。

○冨田勇人委員　それは面白いかと思います、是非そういったものをつくっていけたらよいと思います。

○瀧上会長　ありがとうございました。それでは次の定住促進に進ませていただきたいと思います。今までの子育て支援関係で何かご発言がありましたらお願いいたします。

○石原委員　2点申し上げたいことがあります。まず1つ目は、先ほど川口委員から「市川の保育所に勤めるとこのようなよいことがある」というような事業が出来ればよいのではといったお話がありましたが、私もその通りだと思います。実際に、隣の船橋市では、保育士を目指す学生に奨学金を支給しており、また、保育士になった方に、住宅費用の補助もしています。そういったことで、船橋市にいてもらいながら保育士として働いてもらう環境作りをしており、今月の朝日新聞にも大きく載りました。6 月議会において、奨学金に関しては市に提案したのですが、市川市では保育士は足りているという認識であり、不足している、もっと確保して行くのに努力をしなくてはいけないといったような認識はあまりないように見受けられたのですが、実際はそうではないのではないかと思います。是非、市川こども子育て支援施設協会の方からも働きかけていただけたらと思いますし、声がなければ大丈夫ということではなく、現場を見ていただき、現場からももっと発信をして、コミュニケーションを良くしていかないと、本当の意味での解決にはいたらないのではないかと思いました。保育士確保に関しては、そういった意見です。

　それからもう1点は、資料2の最初のページの1番に「婚活支援事業」とありますが、「婚活支援事業」はよいかと思いますが、何をやりたいのかがよくわからないところがあるかと思います。市川がやってきていることは、これまでも、ただの出会いの場の提供だけなのだと思います。ここを読む限りでは、出会いの場の提供に過ぎないように思うのですが、例えば、市川で出会って、浦安で暮らすのでは意味が無く、市川で出会って市川で結婚してもらって住み続けるためには、どうしたらよいかいったことを考えなければいけないかと思います。ただの出会いの場を提供すればよいのではなく、その先に、何に結び付けていくのかといったことが、他の事業もですが、あまり明確に説明されていないように思います。前回の総合計画審議会では、市民アンケートからはっきりと若年者、特に結婚適齢期の方々が一番望んでいることは、住宅を持つ上での補助制度だということがわかっているかと思いますが、それが今回の骨子案にはあまり反映されていないように思いますので、是非この婚活支援事業のその次といったことを踏まえた

事業にしていかなくてはいけないのではないかと感じました。

それぞれの部署が、それぞれの事業を打ち出してはいるのですが、何が柱でそれがどのように枝葉に分かれて、最終的にはこうなるというようなイメージがつかみにくいように思いましたので、もう少し一般市民の方が話を聞いてもわかるような、骨子案を作っていく必要があるのではないかと思います、以上です。

○瀧上会長　ありがとうございました。今の最後の点は、総合戦略の評価指標を作るわけですから、そこが曖昧になるとどういった指標を作ったらよいかわからないということにもつながりますので、おっしゃる通りだと思います。

○中島委員　おっしゃったとおりに基本は住宅であり、どこに住むのかということがまずあり、その後に初めて色々なことが展開することになるかと思います。住まいがあって初めて福祉も介護も医療も何もかもつながっていくかと思います。

特に、若者にターゲットを絞って取り組む場合に、どういった住まいの支援があるかということですが、これは凄く難しく、おっしゃったように家賃補助があるかと思いますが、これは国がまだイエスと言っていないので、家賃補助をやってしまうと、みんな実際の持ち出しになり、かなり早くにあった目黒区で私はやっているのですが、段々と規模が大きくなっていくため大変な面があります。

そのため、ある対象に限って、例えば、単身若者で家賃補助をするが、その人は介護のボランティアをやるなど、新宿区では防災ボランティアかなにかをくっつけやっているところもあり、そういった形や、市川型のシェアハウスなど、今シェアハウスは非常に大きな問題になっていますが、きちんとしたシェアハウスは、共同の場がありすごくよいことであり、市川型のシェアハウスか、あるいはそういったことを企画した人の共同部分に補助をするなど、そのような形での若い人たちへの住宅支援があるかと思います。

子育て支援についての住宅については、政策は無ないかと思っています。本当は、家賃補助できるとよいのですが、先進国は大体そうですが、払えなければ家賃補助で確保するというのは大体あります。日本は、現金給付がなじまないなど色々な理由でやっていないといったところがあります。今、広がっているのは近居支援であり、高齢の立場でも子供の立場でもどちらでもよいのですが、近くに住む時に、ある程度の家賃補助をすることですが、これは広がってきています。あとは、大きい住宅でよい子育てのマンションがあれば、子育て支援マンションとして認定する制度を東京都などが一生懸命やっていますが、これはあまり意味が無いかと思っています。実際には家賃負担などをや

れるかどうかといったことになるかと思います。

○瀧上会長　ありがとうございました。この問題は、目標の定住促進のテーマでもありますが、確か千葉市だと思いますが、お年寄りが住んでいる一戸建ての家からマンションに移ってもらい、そこに子育て世代の人に入ってもらうなど、住宅については、他の自治体においても、色々な政策を講じているところがあると記憶しています。住宅問題について、総合戦略の中で何かの柱をたてられるのか、これは、先ほど言われましたように、若い人の定住の中で一番希望が多かったのが住宅支援、他の項目の 2 倍以上だったということもありますので、そういった点を考えられないかということは 1 つの議論だと思います。

定住促進について、住み続けて行きたい魅力のあるまちにするといったようなことをどうやっていくかとことですが、市民のアンケートでは住宅条件の改善が必要という意見、特に、住宅確保の問題等が挙げられており、これが子育て世代の転出につながっているかと思います。引っ越した先で、現在住んでいる広い住宅に移るという調査結果も出ていましたが、そういったものに対して、どのように対応できるかといったことであるかと思います。

その他に、引き続き住み続けるということで、前回では市税の減税、防犯対策、安心して妊娠から子育てまで相談できる支援体制、若者の方については、安定した雇用の確保、仕事と生活の両立といったようなものがあれば、市川市に住んでいたといいった結果も前回、紹介されました。

今の政策の中では、市の魅力向上というところに着目して、1 つはガーデニングシティに代表されるまち並み景観の向上、安全な暮らしの提供などを掲げています。それから、文教都市としてのイメージが強い特徴を生かして、市民に対して文化に親しんでいくといったことで、まちへの誇りや愛着を生むような取組みをしていくということを掲げています。これが、誇れる文化のまちということかと思います。

最後に、賑わいのあるまちということで、産業・観光ということですが、産業については中小企業を中心に新たな資源の発掘、クラウドを活用した新しいビジネスを展開していく、そういったことについて、今後どのような戦略を講じて行くかということについての問題になるかと思います。審議会においても、市川市の知名度、ブランド力を向上するなどの必要性といったご指摘もありました。こういったことを踏まえて、ご意見をお聞きしたいと思います。

最初に、商工会議所の冨田委員にお伺いしたいのですが、こういった定住化、住み続けたいまちの中に、安定した職業やワークライフバランスといった市民の要望も出てき

ています。それから、先ほどの婚活の問題においても、商工会議所が地域の 1 つの推進の主体となってやっている地域もあり、浦安、船橋あたりかと思います。商工会議所として、どういった総合戦略、具体的な活動が可能かということについてご意見いただければと思います。

○冨田嘉敬委員　例えば、先ほど婚活の話が出ており、市としてもそれを推進したいといったところも出て来ていますが、どのような形のイベントを具体的に打っていくのかといったことを考えると、例えば、このような会議室で面と向かってのお見合い形式にすることも出来るかとは思いますが、商工会議所でやったことは、地域のお店を使って、そこのお店で婚活事業をやるということです。それも、大きなホテルのようなところでやるわけではなく、地域密着でやっている小さなお店で、男性と女性が色々なお店を回りながら出会っていくといったイベントをやったことがあります。参加する方としては、出会いを求めているのですが、それに協力するお店側としては、埋もれてしまっているような小さなお店を知ってもらうきっかけになるということが実際にあり、「あそこにあのようなお店があったんだね」と知ってもらうことにつながり、売上が伸びたという話もあります。また、そこから実際に結婚に至ったカップルはどのぐらい出たか、その事業がどのくらい効果があったのかといったことと、お店の評価がまたマッチし、市民のなかで噂が広まり、「あのお店へ行ってみよう」といった話になったことも実際にありました。婚活というと、まちづくりとは少し違うところもでてくるかもしれませんが、そういったところとのコラボレーションも必要なのかと思っています。

　松永先生が、船橋の「ふなえもん」といったお話をされていましたが、商工会議所でもそういったものをつくっていくとのことで、「いちかわうそ」というキャラクターを去年つくりました。「なし」といってしまうと、梨に関わっている方だけのメリットのような感じがしますが、当時、動植物園にカワウソが飼われており、滑り台から流れ落ちる姿が非常にかわいい、「流しかわうそ」とのことで、全国版のニュースでも大きく出ていた時期がありました。それをうまく生かせないかとのことで、「いちかわ」と「かわうそ」をかけ、「いちかわうそ」というキャラクターをつくりました。最近は露出も多く、お祭りにも呼んでいただいたりしていますし、商工会議所主催のイベントにも出ています。まだまだ、知名度は低いですが、活躍をしているところでありますので、そういったものが活用されていけばいいかと思っています。

○瀧上会長　産業振興ということで、今、ＩＴ関係でクラウドやＷＥＢを使うなど、新しいビジネスが地域にどんどん生まれており、市川は全国的にも先進的なＩＴ自治体とい

うことも言われています。産業振興といった面で、ＩＴの強みを生かして市川市としてなにか展開することなどは考えられないでしょうか。

○冨田嘉敬委員　そういった分野が得意な方と得意ではない分野の方がいらっしゃるかと思います。商工会議所には、色々な職業の方がおり、言葉が荒っぽいかもしれませんが、ゆりかごから墓場までといったように色々な職業の方がおりますので、その中で困ったことがあった時に、仲間内で相談するつながりができ、当然その中からＩＴの話も出て来るかと思います。ＩＴ関係の専門分野の中身のことは、私も詳しく分からないところが多いのでわかりませんが、そこをどれくらいアピールできるのかといったところかと思います。

○瀧上会長　ありがとうございました。それでは農協の関係の方にお話をお伺いしたいのですが、定住化とあわせて、まちの産業、ブランド力といった市川市の魅力発信といった議論の中で、市川市の色々な地域があって、その特徴を出した活性化なりアピールの仕方とかがあるのではないかといったことなど、色々な議論が出ていますが、市川の農業といった面を中心に何か戦略として考えられないでしょうか。

○久保田委員　ＪＡ市川の久保田です。前回 2 回欠席しておりますので、話がダブってしまうかもしれませんが、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、市川の梨は商標ブランドで登録が認められております。梨の生産量が千葉県は全国 1 位であり、その中で市川は千葉県の中でも 1 番です。市川のまちをただ通り過ぎると、そういったことに気が付かない人も多く、市民の方にもそれだけの農業生産があるということをご存知ない方もいますので、これを魅力の 1 つにしてもいいのかと思います。先ほども出ましたが、商工会議所の協力で色々な梨を使った商品を企画していただき、次々と出させていただいております。市川の名前を付けて出していますので、市川のイメージアップに少しは役立てるのかと思います。

　市川といっても、行徳と北部の大野町では、こちらが農業の中心なりますが、全く違う顔を持っているかと思います。逆に、色々な年代が住めるというキャパシティーを持っているという考え方も出来るのではないかと思います。農業が地域に貢献できることとしては景観があげられるかと思います。山里の風景というのは日本人であれば、落ち着いて安心できる景観だと思います。北部ではまだ残っているところがあります。防災の面から考えても、例えば、9 月に大雨が降りましたが、その時に崖の近くでは危ないということで避難勧告が確か出されたかと思います。そういったところは、今後も計画の

中で、緑地として残し、安全地帯という形で残していただくようになれば、景観も整備されるかと思います。離れたところから見ると、高台になったところに木がいっぱい生えている風景は、昔の風景そのままになります。そういった地域も魅力の 1 つに出来るのではないかと思っております。

ＪＡ市川としても、なるべく地域のみなさんに知ってもらいたい、参加してもらいたいといったことで、春には桜祭り、来月の 1 日には感謝祭といった形で、本店において地域のみなさんに貢献するイベントをさせていただいております。

今までも色々と出てきましたが、そこで私の考えですが、市川には学生、学校がたくさんあります。市川に縁があって学生として勉強に来ているといったこともあり、その間はなるべく地域との交流イベントに参加してもらえるように、学校と連携していくことが考えられるかと思います。先ほども、一部の委員から出たかと思いますが、団地の自治会とか学校等が一緒になり、今はバラバラにやっていることかと思いますが、そこを一緒にやると、学生の市川への愛着心も湧いてくるかと思います。その中で色々な人と知り合うことになり、自分の就職についての情報をそこで得る事が出来るようになるかとも思います。子供のうちから、地域のイベントに楽しく参加していると、ずっと住みたいと思うようになると思います。そういったイベントにずっと参加し、大人になった時にも、今、婚活という事業が出ましたが、イベントの中で自動的に婚活が出来るように、たくさんの若い人たちがイベントに参加していただけるようになれば、その中で出会いの機会があるかと思います。婚活という形が全面に出ると、ちょっと出づらいかと思います。そうではなくて地域の活動の中で、婚活が一緒に出来るということが可能であるかと思います。そうすると婚活し、市川で色々なイベントに参加し、地元に住みたいと思い、地元で住まいを探して定着していくといったよい循環になっていくのではないかと思います。私からは以上です。

○瀧上会長　ありがとうございました。本学生の地域のイベントへの参加は、私どもの方も学生の人間力向上やコミュニケーション力向上などを含めて、積極的に大学の方で推進しており、6000 人くらいの大学生が在学中に少なくとも、一度はボランティアを経験するといった目標を掲げてやっていますが、大学の方としても、どういったボランティアがあるのかといったニーズが散発的に来ているだけの状況なので、地域の全体のニーズがわかるようになれば、やりたいという学生もいますので、参加が出来ると思っています。

○中島委員　和洋には料理関係の人たちがいますので、農業体験をさせていただいたり、

梨を使ったレシピを提供することや、レシピだけを図書館に提供することなど、そういった形でやっています。ただ規模が小さく、多く依頼来るので、少し大変という面があるのですが、学生の人間力の向上には画期的であり、出来るだけ私達も出したいと思っています。今、墨田区でもやっているので、そちらに学生が行っているですが、市川でもそういった機会があり、千葉商大とも一緒にやっていければよいかもしれないと思います。

○瀧上会長　学生の中に、農業に関心を持っている人もおり、その中から何人かガーデニングシティの活動に参加したりといったこともありますので、ＪＡ市川さんの方から積極的に協力やイベントに参加できないかといったご連絡をいただければ、学生の派遣は出来るかと思います。

他に定住化といった部分についてご発言はございますか。

○川口委員　児童家庭支援センター国府台母子ホームが和洋女子大学さんと同じ町内にあり、教員の佐藤めぐみ先生が社会福祉の関係がご専門とのこともあり、職務研修に来ていただいたりしていいます。その関係上、今までなかったことですが、ボランティアさんを施設に派遣していただいていたり、定期的に来て下さる方もいれば、夕涼み会という行事に来ていただける方もいらっしゃいました。少しの関係が出来れば、学生さんに来ていただけることが、近くにいながら、改めて確認出来うれしい 1 年でした。そういった学生さんがどんどん外に出向いてくれるような工夫といったことは、これだけ色々な事業をされている方がいらっしゃるので、出来るのではないかなと思っています。以上です。

○瀧上会長　ありがとうございました。今、福祉の話に戻りましたが、それでは高齢化対策、基本目標 3 のところに進ませていただきます。

今からの超高齢化社会にどう備えて行くかということについての戦略をどう考えるかということであるかと思いますが、将来的に市川市でも高齢者が急増するということ、今 65 歳以上の割合が 20.1%、これが 32.4%まで上がるということで、生産年齢人口 1.7 人で 1 人を支えるという社会になっていくという推計もでています。そういった中で介護需要にどのように対応して行くかということ、介護を支える人材の育成、介護予防の充実、出来るだけ地域で自立して生活をしていけるような地域の支援であったり、そういったことが課題であろうかと思います。

今の高齢化対策を中心として、内山委員いかがでしょうか。少子高齢化といったよう

なことに対して、今からどういった対応していくかといったことについて、お願いします。

○内山委員　一言でいうと、いつも言っている通りで他に言うことはないですが、介護が非常に必要だということは明らかになっており、その介護をする方を日本の生産年齢人口の方だけに頼れば、少ないということは、火を見るより誰が見ても明らかであるかと思います。そういった人達に高い給料を払って介護に来ていただくということ、日本人の生産年齢人口の方たちをそちらの商売に全部振り分けてしまうということは、他の産業はどうなのかといったことになってしまう。つまり、3Kといわれるような職場には、どうしても日本人以外の方にお手伝いをしていただく、これは前から言っている通りのことです。

それも含めて、今までの議論を聞いて、例えば少子化、子供が減るのは困る、正直に言って 70 年以上前の「産めよ増やせよ」の時代に戻るという事ですが、「産めよ増やせよ」はよいのですが、何故それにストップがかかっているかというと、保育制度が上手く行っていない、保育士さんが確保できないということですが、一方、保育士さんの側から言うと、うるさいＰＴＡがいることもあるかと思います。なにかしたら困るですとか、なにかとうるさいとことあるかと思います。先ほどもありましたが、人間力の備わった保育士さんが必要だという事になると、保育士さんを養成するばかりが能ではなく、もう少し親側にもある種のルールを持たないといけないかと思います。これは同じように介護士にもいえることであって、暴力をふるって何も言えない患者を殺してしまったなどの事件もありますが、ある程度、介護士さん、保育士さんなど、福祉に携わる人達の人権を尊重し、人間力が備わっているのだから、預ける側が無条件に「よいですよ」といえる社会をつくらないと成り立たないということが、火を見るよりも明らかだと思います。

人口減少があるということを、事実として受け止めない総合戦略はつくっても意味が無いと私は思います。総合戦略の今日の議論にはありませんが、立地適正化計画なんかもやれということになっていますが、段々と人口が減り、住宅地が狭まってしまう、その中にあって、空き家を利用するというアイディアもありますが、例えば、マンション問題にしても、今のマンションというのは敷地いっぱいに建ててしまい、全然緑地が無いというのが多いかと思います。市川、本八幡を見てもそうですが、とにかく敷地いっぱいで、駐車場さえないなんていうマンションがいくらでもあるかと思います。そのようなことを許容して、景観の良いといったことを言っても意味が無いかと思います。総合戦略で考えるべきことは、当たり前のことですが、人口減少社会というのは当たり前

であり、その中にあってどのようにすればよいかということを考えるべきであり、もっと真剣に考えるべきではないかと思います。

最後にもう 1 つ、悪いことを言いますが、市川市らしさとのことがありますが、市川市らしさというのは、どちらかというと、何もしないというのが市川市らしさかなと思わざるを得ないということが、私の今日の感想であります。もっと建設的な議論になるように努力はしたつもりですが、もう少し深く、深堀りして、議論される方がよいんじゃないかなと私は思います。以上です。

○瀧上会長　ありがとうございます。人口減少を前提としてということですが、前回の審議会で人口減少のシナリオの中では、全ての政策が上手く行って、それから出生率が 1.78 まで上昇したとしても、8 万人余り市川市の人口が減る、そして、最悪の場合、現在のまま何もやらなければさらにその倍減るといった人口推計が前回の審議会で示されていました。人口減少を前提に、その後どのようにそれを受け止めたらいいのかといったことについて、適正な人口構成の確保といったような視点から取り組むべきではないかというご発言もありましたが、今後も総合戦略の議論を更に深めて行きたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

今まで、3 つの基本目標について専門分野の委員のみなさんから色々ご発言を頂戴いたしましたが、今までの議論を聞かれて、ちばぎん総研の松永様はどういったご意見をお持ちになったかお願いします。

○松永哲也委員　専門分野の委員の方の意見をお伺いしまして、それぞれどういった思いで、また実際に色々取り組んでいらっしゃることがよくわかりました。ありがとうございました。

素案全体として、違和感はないと思いますが、私としては、基本目標 3 の高齢化の対策のところで、資料 2 の左の施策を併せてみると、どちらかというと、先ほど、内山委員からお話があったように、高齢者が急増するわけですが、その人たちがどのようなサービスを受けるのかどのような支援が必要かといったことが打ち出されている感が強いように感じがしました。会長からお話があったように、アクティブで元気な市川愛を持った高齢者が市川市にはたくさんいるので、その人たちがもっとアクティブにボランタリーに高齢者を支えるといったことが、当然入ってよいかと思います。基本目標 3 では、1 億総活躍時代ということで、助けてもらう方だけでなく、ボランタリーに高齢者も高齢化社会を支えるという側面も入れた方がよいのではないかと思いました。

それから、市外から見て市川は着実なイメージがあるようで、浦安や船橋に比べると

今一つ勢いがないと感じられるのが事実であります。その辺が何から来ているのか考えると、例えば、常磐線沿線ですと、１番勢いを感じるのが流山ですが、新しいおおたかの森というまちが出来、実際に子育て支援などもやられており、市が保育所に無料巡回バスを出して送り迎えをするという施策もやっているのですが、それよりもなによりも勢いを感じることが、そういった施策に基づき、「母になるなら流山、父になるなら流山」と打ち出してやっていることかと思います。今回の基本コンセプトで、「新生活をスタートするまち」と出されていますが、これを、例えば、地方から来る方に対して「新生活をするなら市川、最初に住むなら市川」というスローガンを掲げて、勢いをつけるといったことが必要な気がしています。

○内山委員　弁解ではないのですが、今日の資料は適正だとは思いますが、もう少し深入りして欲しいとの意味から言うと、例えば、総合戦略で考えると、民主党政権時代の前から公共事業がダメだった、すなわち公共事業が約 3 割削減され、なかなか地方に活力が行かず、地方の活力を活性化するために、公共事業ではなく何をするかと言った時に、各市町村で考えるとのことで、活力が戻るような仕組みを地方自身で考えるという主旨で始めたことだと思います。

そのような中で、先ほど一言だけ忘れましたが、会長がＩＴ産業など、産業のうえで何かないかとお尋ねになったかと思いますが、1 つの方針として「稼ぐまちいちかわ」といったのがあってもよいのではないかと思います。市川市はどうやってお金を稼ぐことができるかといったことですが、下品などと言っている段階ではなく、船橋に稼がれてしまい、浦安に稼がれてしまう状況になっているわけですから、「稼ぐまち市川」というスローガンを基本目標 10 あたりに掲げてつくってもよいのではないかと思います。

１つのヒントは、先ほどのＩＴ産業ですが、例えば、マイナンバー制度がこれから入ります。今は使われてないかと思いますが、住基ネットなどは、莫大なお金を入れましたが、それは一体どれだけの効果をもたらしたのか、全く効果をもたらしていないのではないかと思います。今回のマイナンバーもその可能性があるわけですが、その際に、市川市が中心となり、バイオデータの電子化などを積極的に市川市主導で、国はやりませんので、どんどんシステムを作り、色々なところに役立てるような方針を出されるとよいのではないかと思います。稼ぐまち市川を基本目標 10 と言いましたが、基本目標 0 ぐらいの位置付けでもよいのではないかと思いました。また失礼いたしました。

○瀧上会長　ありがとうございます。稼ぐまちというお話で、最後になってしまいましたが、田中委員にお聞きしたいのですが、雇用の問題、安定した雇用の確保、仕事と生活

の支援、高齢者になっても働き続けるなど色々な面で雇用が全体にかかわってくる要素になると思います。そういった雇用面で総合戦略の中に市川市として政策として打ち出すのはどういったことが考えられるか、そのあたりを中心にお願いできますか。

○田中委員　雇用面とのことですが、個人の考え方もあるので、難しいとは思うのですが、基本目標が今3点掲げられている点について、1つ疑問があります。今、政府が女性の活用ということをおっしゃっていますが、私はあまり人に関する事で活用という言葉を使うのは好きでありませんが、そういったことをやられているということで、この中に何かあるかというと、ちょっと見えづらいかもというところがあるかと思います。

子育てなどの中身が盛り込まれていますが、今、働く環境というのはすごく変わってきていており、女性が社会に進出しないと成り立たない状況であります。その背景というのは、市民のアンケートでも住宅事情に対する何かの支援が必要だといったアンケートの結果が出ていますが、これは何かというと、言い方は悪いですが、お金になるかと思います。生活がなかなか成り立たなくなっているというのが背景、全てがそうではないと思いますが、こういったところがあるかと思います。

何が一番初めにくるのか、子育てなのか、仕事なのか、人が入って来ることなのか、それに対して保育が必要なのか、どれが最初なのかわかりませんが、密接な関係があるかと思っています。人が増えれば、人が生活すれば、その上で子供が産まれてきて、保育所が必要になるといったサイクルがあるかと思っています。

あとは、介護、医療ですが、誰しも必要性があると感じていることと思います。私ごとですが、父も介護を受けておりまして、施設の方に非常にいつもお世話になっているところであります。私はこの中で女性に目を向けてもらいたいと思っています。繰り返しになりますが、これは必要であり、これが上手く行かなければ、移民の方を受け入れるなどということが必要になり、そうしなければ、日本が成り立たなくなってくるということがあるかと思っています。

そのため、まず最初に働く環境をきちんと市川として考えていただきたいと思っています。例えば、私は高谷に勤めていますが、今、外環がつくられ、道路の横には空地というか、どういう土地かわかりませんが、空いている土地があります。そういったところに企業を誘致して、働く場所をつくるとか、そこに送り迎えができるバスがあるなど、より働きやすい環境をつくっていただけたら少しは何かが変わってくるかと思います。

人が増えれば子供が増え、そのうえで保育所が必要になり、段々と市川の中で定着するといったことが起こり得るのではないかと思います。漠然としたことを申しあげて申し訳ありませんが、ご理解いただきたいと思います。

○瀧上会長　ありがとうございました。女性の社会進出の問題が不可欠なことであれば、それに伴って共働き、そして出産、子育てなどが、1つの大きな要素にもなっていますので、その対応をすることも重要だと思います。

それぞれの分野の方からお話を頂戴いたしました。最後に、基本目標の1から3を通して各分野を超えた課題もあるかと思いますし、市川市の強みというものを念頭に置いたというものもあります。副会長の中島委員からいかがでしょうか。

○中島委員　基本コンセプトが「新生活をスタートするまち」となっており、若い人たち、若い男女についてのことですが、また、基本目標3は高齢者についてのことになっています。市川市は基本計画もあり、それぞれの施策でもやっているので、ここでは若い世代が輝く、女性が輝くなどといった形で基本的な筋を立てた方がよいのではないかと思います。

若い人たち、若い世代が市川に来て、そうした時に何が課題になっているか、高齢化している、超高齢化社会の中で、若者が何が出来るのか、どのようなことをしたらいいのかといった、交流の場などに関わってくるかもしれませんが、そのようなことがあるかと思います。

先ほど出ていた、介護者とか保育士がなかなかいないといった時に、先進国では、専門家が地域に住めるようにするために、家賃補助などをしており、保育士と介護士、そういった方が住めるような家賃補助をするといったこともあるかと思います。

若者をターゲットにし、そこに女性も来て、学生さんがその後、続けて仕事をしようとした時に教育の場、学習の場においてどのようにしたら良いかといったこともあるかと思います。そして、働くとするとどのようにするか、若者の仕事を今色々見ていますが、シェアオフィスやシェアカフェなど色々な形で上手なこと創造してきており、収入はよくないが、そこそこ生活出来るなど、色々なことに取り組んできており、その時のスタート資金が欲しいということ、例えば、スタート資金として100万円欲しいといったことがあります。

雇用などでも、先ほど話がありましたが、外環ができるところに雇用の場をつくるといったことや、まち中で若者がちょっとしたことをやる、船橋でも船橋産作物のレストランができるなどしていますが、そういったものを若者がやるといったことなどがあるかと思います。

市川は若者を輝けるようにするといった形で、その後住み続けたい魅力あるまちであるという点でどうなのだろうか、それを高齢化社会の中でどうしたらよいのだろうかと

いった形ですっきりさせた方がよいのではないかと思います。そうすると、政策的にも焦点を絞れる。総合戦略といわれるので、ついあれもこれもと欲しくなりますが、それは基本的な政策に任せておいて、市川に来たら若者は元気になれる、子育てもここで出来る、といったことで論理的に筋をたてられないかといったことを感じています。

○瀧上会長　これで一通りそれぞれの分野で発言していただきましたが、これから議員の委員の先生の皆様に今までの議論を聞いていただいた上で、ご発言をお願いします。では最初に秋本委員からお願いいたします。

○秋本委員　皆さまのご意見を伺いまして感じたことは、やはり情報を公開して、それが使いやすいまちづくりというのが大切ではないか、そのためにはＩＴの活用をもっと充実して、使いやすいものにしていくことが必要ではないかと思いました。

それからもう１点、「賑わいのあるまち」において、農業のことが出たのですが、私は三番瀬がとても興味があり、仕事の 1 つとしていますが、私が神奈川県からこちらに嫁いできた時に、江戸川沿いの自然が東京都に近い割にはとても豊かで、子育てするにはこののんびりした雰囲気がよいと感じたところがあります。今色々と問題がありますが、農業とともに水産のほうも活用出来たらよいのではないかと思います。

それからもう 1 つは、介護の問題で、今、若い生産年齢の方が介護をという話もありますが、実際には老老介護というのも大きな問題になっており、子供と同居する家庭が少なくなってきている状況で、介護サービスがある程度締め付けられてきています。ここのところもみなさんご存知だと思いますが、予防にシフトしている関係で、そういった問題も出てきております。また、市川市は、地域包括センターを増やしていますが、実際には主要となる駅の近くは少なく、そこからバスを活用して行くというような、高齢者にとっては少し課題が大きいと感じているところです。

答えになっているか分かりませんが、そういったことに気がつきました。

○金子委員　市川市は大型事業を多く抱えていますので、今後財政的には厳しくなることがはっきりしています。今回、新型交付金を活用するにあたり、条件があるかと思います。新規に取組む事業、ソフト事業、地方単独事業、もう少し絞った議論をしていかないと、みなさんのご意見はもっともなのですが、絞り込んでこの交付金を最大限活用することが必要ではないかと思います。

それから、少子化の問題、高齢社会の問題、これを対として捉えるのではなく、私は高齢者だけの集まりには行きたくない、高齢者も若い人も一緒の集まり、そういったと

ころに出掛けて行きたいと、一人暮らしのお年寄りから言われたことがある。そういった若い人、子供達を高齢者が見れば、元気が出て、そうなれば介護予防にもつながり、イベントにも出掛けて行く、そういったことがこれからの高齢化を支える人を増やす点でも大事ではないかと思います。

それから市川の特性としては、住宅都市であり、若い人は皆都内に働きに出て、土日はみんな疲れて家にいるかと思います。若い人が遊び行くといっても都内に行ってしまうという点で、子育てするなら市川というのはよいのですが、なかなか若者が見えない状況かと思います。そういった面で、今、一番若者の子育て支援で必要なことは、子供の医療費の負担をもっと減らして欲しいということがあります。今は中学 3 年生まで市川市で補助していますが、これを高校生まで広げるなどがあるかと思います。窓口でも今 1 回 300 円払わなければいけないのですが、他では 200 円でやっていることなどがあります。それから、所得制限もありますので、2 割近い方が医療費の助成を受けられないということもあります。こういったところを思い切って無くし、負担を減らしていく、保育料についても負担を減らしていくことがあるかと思います。このあたりも新型交付金で活用できるかと思います。

地域消費喚起・生活支援型交付金というのがあり、住宅リフォームでも使えます。市川市では老朽化している住宅も多いかと思います。防災面でも助成金はあるのですが壁を直す時など、色々と使えるような住宅改修に補助を出し、これを市内業者にやってもらえば、雇用の拡大にもつながり、周り回って市の税収も増えてくるといった循環型の経済になっていくので、その辺を市川市としてももっとやっていけるのではないかといったことを申し上げておきたいと思います。以上です。

○佐藤委員　色々と皆さんとのご意見をお伺いして、なるほどと思うことが多いわけですが、一番の問題は、働きたい若いお父さんとお母さんがなかなか子供を預けて仕事に行けないというところかと思います。これは非常に経済的に圧迫されるからかと思いますが、子供を一人作ると二人目を躊躇してしまうといった問題がかなり大きくあるのではないかと思います。是非 0 歳から 1 歳の子供たちを預けられる保育園の充実、これは待機児童の解消であり、市長もマニフェストで謳っているのですが、本当にこれが解決できていないかと思います。もう 6 年くらいになりますから。こういったものを本気になってやっていただき、それによって市川市が子育てをしやすいまち、コンセプトでそういったものを謳っていますが、実際本当にやる気があるのかというところが心配です。

それから、先ほども内山委員の方から言われましたが、マンションに対して駐車場が無い、道路を走っていると確かにマンションは建っていますが、マンションの駐車場が無い、

引越車を止める場所もなく、公道に堂々と車をとめて引越しをしている状況があります。そういった建物の認可を誰が出しているのかという問題があります。

それから、市川市はよく見ると、建築基準法違反の建物が多いかと思います。4mの拡幅もない道がいっぱいあります。建築基準法を守って認可していれば、昭和 26 年からの法律ですから、遵守していれば 4m以下の道路など市川市は 1 本もないはずですが、狭い道路が多くがあります。災害、何かあった場合に消防車や救急車が入って行けない、そういった道が非常に多い現状がある中で、安心で安全なまちづくりをするんだと片方では言っていますが、そういった基本的なものが本当に大事にされていないと思います。緑の少ない、緑地のない、公園のないマンションも目立っています。

それから、保育園や小学校も人気のある南側の土地は教室さえ確保できないということで、所帯を持った方が入るようなマンションの建設がブレーキがかけられています。そのため、一人で住めるような小さいマンションが多く田尻地区、信篤地区に増えていることがあります。

先ほど子供さん達のふるさとづくり、地域に対する愛着づくりとおっしゃっていましたが、そういった地元の自治会が主催する祭りや子供神輿や盆踊りなど、小さいお子さんから高齢者の方々が参加するような行事をもっと積極的に市川市としても支援していき、子供達のふるさとづくりといったものを通して地域のコミュニケーションに力を入れていただきたいと思っております。

多くありますが、いい施策をつくっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○西牟田委員　先ほど松永委員さんの方からあったと思いますが、流山市の話が出ていまして、確か昨年の千葉県内で流出入のプラスが 1 番多かったのは多分流山市だったと思います。何故かと言うと、さっきもおっしゃったのですが、市川市よりも活力があるというイメージが私にもあります。色々な施策もあるかとは思いますが、やはりそれが一番大事なことかと思います。

活力は何かというと、産業や稼ぐといったお話もあったと思いますが、そういったことが必要なのではないかなと思います。そうは言ってもまだ市川市の方が住宅コストが高いと、マイナス面とも考えられますが、それだけまだ魅力があるということかと思いますが、ただ千葉県の中で 1 番東京から近いからと言う事だったかもしれません。これから放っておくと市川市の住宅コストが安くなってしまうということの方が怖いことかと思います。そうなってきてからでは遅いので、それまでにどう市川に活力を作るかとのことですが、先ほどあったようにＩＴなどがあると思います。ただし、どこの自治体もＩＴか医療であり、どこでもやっていることであるので、これで差別化なり、一歩先

に行こうと思うと相当大変かと思います。

その中で、市川ならではのＩＴをどのようにのかというと、例えば、農業のＩＴ化で最先端に行くことや、または市川にはお金持ちがたくさんいるという話ですから、このお金持ちのお金を動かすためにクラウドファウンディングの仕組みを作って、地域でそのお金をどう活用するかといったことを全国に先駆けて作るいったことがあるかと思います。これは自治体がある程度関わらないと出来ないことだと思うので、大学も関わっていただいてよいかと思いますが、そういった市川ならではのＩＴを考えていく必要があるのではないかと思います。また、防災面での活用も考えられるかと思います。土砂崩れに対する警戒のためのＩＴといったことがありますが、そういったことをやるといった方法もあるのではないかなと思います。ＩＴといっても、そこでどのように市川の特徴を出すのかということが必要になってくるのではないかと思います。以上です。

○松永鉄平委員　今回の総合戦略を見せていただきますと、全体として感じることは、総合計画の一部分の焼き増しに過ぎないのかなと思っております。将来に対する対策というのは、総合計画の中でそれなりに計画をされており、ここに挙がっているようなことも、総合戦略の中であえて謳わなくてもきちんとやっていくことであると思います。例えば、子育て支援の充実や、高齢化対策もそうであると思います。むしろ、私が総合戦略に期待する事は、もっとバイアスをきかせてた対策を取っていくということを打ち出していくことが必要だと思います。実態として、10 代から 20 代の若者世代が転入超過、30 代から 40 代が転出超過の傾向にあるといったことに対して、どのような打ち手を取っていくのかということをフォーカスをしていく必要があるのではないかと思います。それが 1 点です。

もう 1 点としては、住民の方もそうですし、他の地域に住む方もいらっしゃいますが、前回言わせていただいたのですが、その住民の方がイメージする内容と実際のサービスの供給レベルにギャップがあるかと思います。そのギャップに対して、どういったイメージ戦略を謳って、保育所が他の地域より劣っているように感じるかもしれないが、実は充実しているのですよといったことなど、中身の充実は当然ですが、イメージをいかに作っていくかということが重要なのではないかと思います。

打ち手ということを考えて行く中で、私なりに思うことを言いますと、今の若い世代が何に波及されて動いているかということになるかと思います。私が近年特に思うことは、いわゆるモノということよりコトということに対する引きつけが非常に強いことかと思っています。先日マスコミの方とも話したのですが、人が集まるところは何かというと、フェスやイベントなどであり、近年の新しい流れの中でいうと、例えば、ハロウィンとい

うイベントがあります。これは全く日本で由緒も何もないお祭りですが、コトの中でハロウィンということが個人社会の中で、集まれる場を人々が求めているからこそ、これだけ成長しており、これだけ産業として成り立っているかと思います。いかにそういったものをこの市内の中で作り上げていくかというところ、いわゆるコト産業をどう育成して、コト産業に紐づいてくる人を集めていくかということにバイアスをかけてシフトして行くやり方が 1 つあるのではないかと思います。今、日本の中で成長している産業としては、モノというよりコト産業だけだと思います。エンターテインメントや文化、音楽、スポーツなど色々あると思いますが、そこにどうシフトして行くのかを考えていく必要があると感じました。

特に 80 周年を機に、「いつも新しい流れがある市川」ということをうたっているわけですから、新しい流れが何もない総合戦略ではなく、新しい流れがある総合戦略にシフトしていくことが必要かなと思いました。

■閉会

○瀧上会長　ありがとうございました。色々と貴重なご意見を頂戴いたしまして、時間になってしまいましたので、今日の議論は以上にさせていただきます。

事務局におかれましては今日色々貴重なご意見が出ましたので、総合戦略のまとめに向けた検討を引き続きよろしくお願いいたします。最後に事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局　長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

次回、第 4 回の審議会につきましては、11 月 20 日金曜日　午後 3 時からの開催を予定しております。ご出席、よろしくお願いいたします。

○瀧上会長　以上で、平成 27 年度第 3 回市川市総合計画審議会を閉会させていただきます。

（12 時 00 分閉会）